



第29回人口と開発に関する アジア国会議員代表者会議

—人口・開発事情視察—

2013年8月29-30日

フィリピン国バギオ・ラトリニダード

はじめに	3
視察プログラム概要	4
○第 1 日目	4
＜コルディリエラ行政地域少数民族に関する国家委員会、報道関係者、地方自治体関係者との異文化交 流会＞	4
＜プレスリリース（原文）＞	5
○第 2 日目	6
＜フォーラム：コルディリエラ行政地域の多元的社会における少数民族の人口・開発課題＞	6
＜ラ・トリニダード市バホング村　JICA 農業開発支援事業視察＞	13
＜総括協議＞	15
行動への呼びかけ	17
参加者リスト	19

はじめに

（公財）アジア人口・開発協会（APDA）は、2013年8月28日にフィリピン・マニラで開催した「第29回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」に続き、8月29～30日にルソン島北部のコルディリエラ行政地域で人口・開発事情視察を実施しました。

当プログラムは、国連人口基金（UNFPA）、国際家族計画連盟（IPPF）の支援のもと、フィリピン人口・開発議員委員会（PLCPD）およびラ・トリニダード市とバギオ市の協力を得て、宗教・文化的多様性が人口問題にもたらす影響を検証し、この問題に具体的に対処するための国会議員の役割について検討することを目的として実施されました。また、この視察事業は、多様化する人口問題を解決に向けて、この問題に取り組む国会議員ネットワークとパートナーシップの強化を目指しています。

コルディリエラ行政地域は、この地域に住む少数民族のための特別行政区域として1989年に編成され、アブラ、アパヤオ、ベンゲット、イフガオ、カリングア、マウンテンの6州とバギオ市から成っています。

人口・開発問題を解決に導くために、国民の代表である国会議員は、政府と国民の橋渡しとして文化多元性を理解し、国民のニーズを把握し、そのニーズを満たすための資源を効果的・効率的に分配するという重要な役割を担っています。特に人口問題は、強制できない問題のため、異なる文化や価値観への理解を深めることは非常に重要です。

今回の視察では、この地域の少数民族の代表者らとの活発な意見交換・交流を通じ、文化多元性における国会議員の役割の重要性が再認識されました。

参加者からは、実際の現場を視察し、現地関係者と対話することで、第29回APDA会議で協議された人口・開発問題をより深く理解でき、相乗効果がもたらされたとの声が多く聞かれました。

さらに、すでに直面している人口問題を解決するだけでなく、今後対応が必要となる人口問題に備え、力を合わせて持続可能な開発を達成するために、こうした国会議員活動の連携を促進するプログラムの継続を求める声が数多く寄せられました。



視察プログラム概要

○第 1 日目

＜コルディリェラ行政地域少数民族に関する国家委員会、報道関係者、地方自治体関係者との異文化交流会＞

2013 年 8 月 29 日、マニラからバスで 7 時間かけて、コルディリェラ行政地域の中心都市であるバギオ市に向かいました。マウリシオ・ドモガン市長およびフィリピン情報局（PIA）が主催した異文化交流会では、参加者は少数民族の歌や踊りをはじめとする独自の文化に触れるとともに、現地メディアや少数民族に関する国家委員会、地方自治体関係者らと意見交換を行いました。

ドモガン市長自身も少数民族であるイゴロット族であり、スピーチに先立ち、オガヤンと呼ばれる喜ばしい機会に幸福を願う伝統的な歌を披露し、参加者達を歓迎しました。

また議員団を代表し、中国のワン・ロンドゥー議員が、ドモガン市長および主催者である

APDA と PLCPD に対し、温かい歓迎と同プログラムの開催に感謝の意を表しました。特に、視察に先立ちマニラで開催された第 29 回 APDA 会議では、人口・保健分野におけるフィリピンの若者の事例や文化多様性への対応策を学ぶことができ、自国の政策を考える上で非常に有効であったことを強調しました。また、各国からの参加議員に向け、人口問題の解決と持続可能な開発の達成という共通の目標に向け、より密接に連携し、この問題に取り組むことを呼びかけました。



伝統的な踊りを披露したコルディリェラ大学の学生グループは、参加議員らを踊りの輪に誘い、和やかな雰囲気の中、互いの交流を深めました。

また、現地メディアが APDA に対してインタビューを行い、その内容をもとに翌日にプレスリリースを発表しました。（P.5 に原文掲載）



<プレスリリース (原文) >

Parliamentarians from Asia and the Pacific visit Baguio and La Trinidad for cultural visit on population and development issues

Local governments of Baguio and La Trinidad hosted a cultural interaction and study visit of parliamentarians from Asia and the Pacific aimed at exploring the dimensions and intricacies of culture and religion as key considerations in formulating and implementing population and reproductive health policies and programs. The parliamentarians are delegates to the conference titled The 29th Asian Parliamentarians' Meeting on Population and Development under the theme of High Level Dialogue in a Culturally Pluralistic Society held last 28 August at the Intercontinental Hotel Manila, Makati City.

The three day activity, which was also attended by several national legislators from Philippine Congress, covered the various pressing issues on reproductive health, population and development, religion and culture, HIV and AIDS in the Asia-Pacific region.

La Trinidad and Baguio were chosen as the areas for the study visit for its very rich culture and traditions and the presence of strong support among the Local Government Units on population and development issues. Baguio City Mauricio Domogan and PIA Director Helen Tibaldo welcomed the arrival of the delegates through a dinner and cultural performance at the Dap-ay, Philippine Information Agency grounds yesterday evening. On 30 August, the participants were warmly welcomed by Mayor Edna Tabanda and local government officials. In the interaction and forum that followed after the arrival in La Trinidad, Rep. Teddy Brawner Baguilat gave a situationer on indigenous people's and critical policy initiatives that will promote and protect the rights and welfare of IPs in the Philippines.

The Asian Population Development Association (APDA) based in Japan and the Philippine Legislators Committee on Population and Development (PLCPD) organized and hosted this gathering of parliamentarians to contribute in the on-going efforts to accelerate the achievement of the International Conference on Population and Development Program of Action (ICPD) and Millennium Development Goals (MDGs) as one of the key issues to find workable solutions to address population challenges, while respecting different values in culturally different contexts. Ms. Hitomi Tsunekawa, Manager of APDA's international affairs thanks Mayor Edna Tabanda for her invaluable support to the study visit. "The issues that the Cordillera people face today, such as environmental degradation, migration and lack of government services and poverty is similarly being faced by Indigenous People in the Asia and the Pacific. But with committed parliamentarians and local government officials, I firmly believe that appropriate policies and resources can be mobilized to address these concerns."

○第2日目

＜フォーラム：コルディリエラ行政地域の多元的社会における少数民族の人口・開発課題＞

8月30日、ラ・トリニダード市長舎において「コルディリエラ行政地域の多元的社会における少数民族の人口・開発課題」と題し、アジア国会議員、現地政府関係者、少数民族代表者および専門家との会議が開催されました。

はじめに

エドナ・タバンダ ラ・トリニダード市長



ラ・トリニダードによ
うこそお越しくださ
いました。ラ・トリニ
ダードとは、かつてこの
山岳地帯に入植したス
페인人のドン・M・キ
ランテの妻の名から名
付けられました。妻の
ラ・トリニダードは、

この土地の美しさに非常に感銘を受けたと伝えられ、今日ラ・トリニダードは多文化共生社会として知られています。

コルディリエラ行政地域は、ベンゲット州を含む6つの州と1つの独立都市（バギオ市）から成り立っており、ラ・トリニダードはベンゲットの州都です。ラ・トリニダードでは都市化が進んでおり、人口は119,000人、バ

ランガイが16あります。バランガイというのは最小行政単位で、バランガイが市・町を構成し、市・町が州を構成します。

土地面積は狭く、主に山地です。商品性の高い作物としてはイチゴの生産量が多く、フィリピンでは、「イチゴの首都」として知られています。野菜の栽培も行っており、またコーヒー産業も始めています。

午後に皆様は、市の中心部から10分程離れたバランガイの1つを訪問し、少数民族（IP）の長からお話を聞くことになっています。そこでの短い滞在を楽しんで頂ければと思います。

ラ・トリニダード概要

ジョアン・バコリング ラ・トリニダード市
企画専門官

ラ・トリニダード市はベンゲット州の州都です。ダイナミックで持続可能な市として、生態系の均衡が保たれ、平和で神の愛を受けた健康な人々が、社会的正義と適正な統治のもとで暮らすことを目指しています。

私たちの使命は、最大限に資源を活用し、人々の積極的な参画を促し、政府と市民社会、また企業とのパートナーシップを促進することで、適切かつ人々のニーズに合ったサービスを提供し、市民の安全で豊かな暮らしを守ることです。そして私たちの目標は、生活の質を改善し、経済発展を加速化し、基本的なサ



ービスをより多くの人々が享受できるようにし、持続可能で汚染のない、緑豊かで美しい環境を維持することです。市の概要は以下の通りです。

- 面積：8,079.51 ha
- 地形：山岳地帯
- 気候：平均 18.5℃と年間を通して冷涼
- 空気・水の質：概して良好
- 災害：脆弱
- バランガイの数：16（2,740 ha）
- 都市部のバランガイ：8（5,338 ha）
- 土地利用：農地 38%、低木林地 10%、住宅密集地 10%、森林地帯 40%、その他 2%
- 2013 年の人口：119,989 人
- 世帯数：29,997
- 世帯構成：平均 4 人
- 人口増加率：3.83%（国平均は 2.3%）
- 人口密度：1 ha 当たり 13 人
- 主な民族グループ：イバロイ、カンカナウイ
- 耕地：平均 0.5 ha

ここでの主な経済活動は農業です。主要農作物は高原野菜、切り花、イチゴです。ラ・トリニダード市のベジタブル・トレーディングポスト（市場）は、ベンゲット州で生産される野菜を国内各地へ供給する拠点となっています。高原野菜の主要生産地であることから、「フィリピンのサラダボウル」とも呼ばれています。先ほど市長がおっしゃったように「イチゴの首都」としても知られています。ちな

みに、私どもは世界一大きなショートケーキを作ったギネス記録を持っています。また切り花の生産地として、「フィリピンのバラの首都」という称号も持っています。

小売業及び卸売業が雇用に占める割合は 22%です。金融サービスとともに製造業も伸びていますが、製造業は非常に小規模です。教育に関しては、市内に私立学校が 37 あります。

歓迎挨拶

エドナ・タバンダ ラ・トリニダード市長

私どもの開発計画と非常に関係のある「コルディリエラ行政地域の多元的社会における少数民族の人口・開発課題」というテーマに関して、視察の現場として選んで頂き光栄に思います。このテーマは、私たちにとって中心的な課題となっております。文化的多様性はこれまで社会的に重視されてきませんでした。が、ぜひ今日の人口と開発に関する議論により、国境を越えた交流を促進し、アジアにおける人口と開発に関する優良事例の共有と実施につながることを期待しています。

こうした国際レベル、国内レベル、また地域レベルの活動は、特に政策策定者にとって非常に重要です。なぜなら人口・開発問題は、国会プログラムや国際的政策に関わるだけでなく、地方政府のプログラムに大きく関わるからです。

また本日は、コルディリエラ行政地方のそれぞれの州を代表する方々をお招きすることができ、大変嬉しく思います。この交流を通じ、私たちが多くを学び、またこうした交流を継続していけるようにと願っています。

ベンゲット州では、バギラット PLCPD ルソン地方副議長のもと、州政府、関連機関も人口・開発問題に力強く取り組んでいます。なぜな



ら、人口・開発問題が環境、教育、女性・子ども、また特に少数民族の人々に与える影響を理解しているからです。

日本の議員の方にご参加頂いていますが、ベンゲット州ではJICAプロジェクトが実施されています。そのうち一つのバランガイでは、JICAの高地農業・農村開発プロジェクトが実施されています。またベンゲット病院もJICAを通じて日本政府より補助金を得ました。交流制度のおかげで多くの方が日本を訪れました。日本の人々の寛容さに感謝申し上げます。

ベンゲットには日系3世の方も住んでおり、日本とは長きにわたり友情を育んできました。ぜひ他の国の皆様とも、交流制度やネットワークを構築し、ご自身の国の都市と姉妹都市提携を結ぶことができればと思います。それが皆様の国とフィリピン、特にラ・トリニダードとの美しいパートナーシップの始まりになると思います。

私はこれが世界平和を実現するための1つの道だと信じています。改めまして、この地でこのプログラムを実施して頂き大変嬉しく思います。この実現に際し、PLCPD およびバギラット議員、ご支援に感謝申し上げます。

開会挨拶

マウリシオ・ドモガン バギオ市長

代読：ラファエル・サロコイ バギオ市長秘書官

この地域の人口問題に関して言えば、農村地域から都市部への急速な人口移動が起きています。道路等のより良いインフラ、教育施設、便利な交通手段、病院、雇用機会、ナイトライフの魅力を求め、人口が移動しています。

こうした急速な人口の増加のニーズに対応するため、政府は対策を迫られています。適切な対策を講じなければ、廃棄物が増加し、汚染が悪化し、水が不足し、住民の文化的な相違に起因する犯罪が増加するといった状況になりかねません。

しかし、こうした異なる文化を互いに理解し合い、文化を受容することで、少数民族と他のコルディリエラの人々との間に調和が生まれ、「多様性の中の統合」と私たちが呼ぶ調和と発展が生まれると思います。

人口増加と資源との均衡は、放っておいて達成できるというものではなく、協調的な方法による、個人、国家、国際レベルでの価値や目標についての変容が求められています。



私たちは皆異なり、また人間の変化はゆっくりしたものかもしれませんが。しかし変化する必要がありますのです。コルディリエウの人々はそれを実現できると思います。

改めて、市長にかわり、皆様にお祝い申し上げ、ここコルディリエウでこの人口と持続可能な開発に関するプログラムを実施して頂いたことに感謝申し上げます。

基調挨拶

テディ・ブラウナー・バギラット 議員

イフガオ代表／PLCPD ルソン地区副議長

この地域は、フィリピンで唯一の山岳地帯です。この州の私の部族には、その昔、天国が地球にもっと近く、人々は実際に空に触れることができたという伝説があります。

少数民族に関して言えば、イフガオは恵まれているといえます。フィリピン南部のミンダナオ島や、フィリピン中央部から参加する少数民族の人々は、コルディリエウ地域では、少数民族出身の市長、弁護士、医師、議員等がいることに驚きます。なぜなら、フィリピンに 1400 万人いる少数民族の大半は、いま

だ社会から取り残され、経済的、政治的、社会的に弱い立場に置かれているからです。

例えば、わが国のミンダナオ島では鉱業が発展してきていますが、企業による搾取が問題になっています。特に、少数民族の権利に関する法律が制定される前は、多くの人々が、採鉱企業や畜産・農業関連企業によって立ち退きを迫られることがありました。少数民族の権利に関する法律制定後は、採鉱会社は、事業を開始する前に少数民族の合意を得なければならないことになっています。

政府の対応にすべて満足しているわけではありませんが、これは少数民族の要望に応えられるよう最善を尽くしている例だと思います。

教育や保健サービスに関して、多くの懸念事項があります。特に奥地やジャングル、離島に住む少数民族は、学校もなければ先生もいません。従って、教育省は少数民族を対象とした教育の枠組みをスタートさせ、資源の分配や教師の増員を目指しています。

社会福祉開発省も、「4P」と呼ばれるプログラムをはじめました。これは、条件付きの現金支給プログラムで、特に少数民族に着目した貧困緩和プログラムです。

ただフィリピンで少数民族に対するサービス提供しようとする場合にはその他の課題があることも事実です。例えばコルディリエウ地域では少数民族を特定することも、彼らがどこに住んでいるかを把握することも容易ですが、ルソン島中部やミンダナオ島では、少数民族は山奥に追いやられ、その結果、彼らの所在地を特定することが難しく、サービスを提供することができません。





そのため、私は現在、政府が少数民族に対する国勢調査を実施するよう義務付ける法案に取り組んでいます。また、少数民族に配慮した政府の対応を求めて、住民票登録法を起草しました。多くの少数民族は、通常1つしか名前がありません。しかし登記の際には、それでは不十分なので、宗教に係わらず彼らもクリスチャンネームを使用しなければならないという状況があります。また、少数民族の宗教的指導者が結婚を執り行うことが、法律上正当と認められるよう働きかけを行っています。

人口問題を考える際、残念ながら少数民族の中には RH に対する理解はまだ進んでいないと思います。前回の国会会期中に RH 法が通過しましたが、それに至るまでは非常に困難な道のりでした。少数民族出身の議員は、RH 法に反対をしていましたが、私を含む 6 議員は RH 法の成立に投票しました。

教育に関しては、コルディリエラ地域ベンゲット州のバギオ市には多くの大学があり、マニラからも人々が学ぶためにやってくるほどです。文化的遺産の面では、少数民族の中には近代的技術を取り入れ始めている人々もいます。一方、脆弱な立場にある少数民族は、

伝統的な暮らしに固執するというのも事実です。

皆様にフィリピンの少数民族の現状を知って頂き、ぜひ自国に戻られてからは、それぞれの国の少数民族の権利向上のための法案に取り組んで頂けることを願っています。

コルディリエラ行政地域における少数民族の課題

キャスター・パラガナス CAR 国家少数民族委員会 (NCIP) コンサルタント

ここにご参集の各国の国会議員の皆様と、この地域が直面する問題を共有し、ぜひ問題解決に向け、ご支援を頂きたいと願っています。先ほど、日本の最年少の参議院議員でいらっしゃる熊谷先生から、この問題解決に協力したいというお言葉を頂きました。ぜひ皆様のお力で、各国における少数民族に関する問題意識を高めて頂きたいと思います。

私自身は少数民族出身ではありませんが、この地域で長年仕事に携わる中で山岳地帯の多くの場所を訪れ、森林や水資源等の天然資源の豊富さを目にしてきました。また、この土

地では、ハイテク製品の部品に必要な鉱物資源（レアアース）17 種の内、11 種類程が採れます。

残念ながらフィリピンはまだ農業国です。残念と申し上げたのは、もちろん農業は重要な分野なのですが、フィリピンは産業化に必要な鉱物資源が豊富であるにも関わらず、工業国となっていないからです。

フィリピンの場合、天然資源は豊富なのですが、それを採掘、運搬できないという課題（物理的なアクセスの問題）に直面しています。しかしながら近年、道路の建設により、アクセスが改善されつつあります。

人々の福祉、RH と人口問題に関して申し上げますと、ここでは精神世界と自然環境との共存を重視しています。以前、PLCPD とともに、この地域の人々の人口・保健分野の課題を調査したことがあります。課題の1つは、基本的なニーズに対するサービスが不十分であることでした。また、SRH や若者に対する RH、HIV／エイズや他の性感染症を含む保健問題に対処するための資金や計画が十分でないことが挙げられました。他にも、社会サービスの欠如、水道システムの未整備、電化の遅れ、灌漑施設が利用できないといった問題に直面しています。

また、子どもたちが隣の学校に通えるように橋を作る必要もあります。バランガイの中

には、教育施設や教師が不十分なため、異なる学年が一つのクラスルームで学んでいます。少数民族はこうした開発問題に直面しています。ぜひ国会議員の皆様に取り組んで頂きたいと思います。

皆様も耳にされたことがあるかもしれませんが、土地は先祖から受け継いだものではなく、未来の子ども達からの借り物だという表現があります。この地域の少数民族にとって、またおそらく他の地域の少数民族にとっても、自分たちの土地というものは非常に大切なものです。

先ほど申し上げた通り、この土地は、天然資源や鉱物が非常に豊富です。そのため、海外から採鉱者が押し寄せ、私たちの土地、河川、集水域を破壊し、開発・貧困問題にも影響を及ぼしています。

2010 年 5 月現在のコルディリエラ行政地域の基本情報は以下のとおりです。

- 人口：160 万人
- 人口増加率：1.7%
- 面積：80,290 km²,
- 自治体数：86
- 失業率：5.7%

失業率については、特に看護師の失業率が高く、彼らの中には、外食チェーン店やコールセンター等で働いているものも多くなります。失業は非常に深刻な問題の1つです。



人口問題は、社会・環境問題、また人々の暮らしに大きく関わっています。コルディリエラ行政地域は、2014 年の国家予算案で、16 地域の中でもっとも少ない予算配分となっています。予算がなければ、人々に基本的なサービスを提供することができません。この件について、ぜひ国会議員の方々に、予算増額に向け、ご支援頂きたいと考えております。

ミレニアム開発目標にある、初等教育の普及、妊産婦や乳幼児死亡率の削減を達成するためには、必要な資金をニーズに応じて配分することが必要です。こうした声を政府に届けるために、皆様のご支援をお願いしたいと思います。



コルディリエラ行政地域の少数民族代表によるメッセージ

ポリーナ・サワダン博士 アブラ州北部代表
アブラ州は 27 の自治体から成り立っており、非少数民族の自治体は 9 つのみです。教育省は教育の向上に力を注いでおり、5 つの大学があります。また識字率向上プログラムも実施しています。

率直に言えば、アブラ州には少数民族でない人々のほうが圧倒的に多いのですが、少数民族は土地の権利を所有しています。人口・開発分野における課題の 1 つは、サービスの利用が困難なことです。

ポール・バグイタイ牧師 アブラ州南部代表
私の家族はアブラ州でも最も貧しい地域の出身です。私たちの課題はやはり教育です。いまでは弁護士、医師や看護師になるものもでてきていますが、職がないものも多く、深刻な問題となっています。

ノルベルト・デュラン博士 アパヤオ州代表
アパヤオ州は 1995 年にカリंगा・アパヤオ州から 2 つに分割されて誕生しました。7 つの自治体から構成されており、80%が少数民族です。また土地の 80%が森林に覆われています。観光資源もあり、森林保全と河川保全にも力を入れています。

ピーター・コザラン博士 ベンゲット州代表
私の州では 3 つの課題があります。1 つ目は、少数民族に対する意識が十分でないことです。2 つ目は、国家政策等により先祖代々の土地から立ち退きを迫られるケースがあることです。3 点目は、山がちな地形のために、保健、教育、社会サービスの利用拡大が困難なことです。1987 年の憲法制定によって初めて少数民族とその権利が認識されました。

また州政府の力が弱く、天然資源を管理する権限がありません。そのため、1904 年からこれまで、私たちの鉱山資源は搾取され続けています。

上記に加え、以下の少数民族代表者、信仰に基づく団体代表者が参加し、この地域の問題に対する理解と解決に向けた議論を深めました。

イメルダ・パルカソロ イフガオ州代表
ジュリー・c・カバト イフガオ州代表
ヘンリー・ハコルナ神父 イフガオ州代表
シーナ・g・ブマンシル カリンガ州代表
リン・マダラン マウンテン州代表
ジョナサン・オバール神父 信仰に基づく団体（FBO）代表

挨拶

グエン・ティ・カ議員（ベトナム）

視察団を代表し、皆様の温かい歓迎に感謝申し上げます。本日、この地域の少数民族の方々の生活水準を上げ、保健問題を改善するための対策を伺い、多くのことを学ぶことができました。皆様のご努力に敬意を表したいと思います。

ベトナムも少数民族を数多く擁しており、様々な問題に直面しています。政府も取り組みを行っています。私たちは国会議員として、自国の少数民族の問題に責任があるだけでなく、この地域の少数民族の問題にも関わっていく必要があると思います。フィリピンとベトナム、また他の国々との交換プログラムを推進していきたいと思います。



くら・トリニダード市バホング村 JICA 農業開発支援事業視察＞

午後、参加者らはジープニーに乗り込み、バランガイ（村）の一つ、バホングを訪問しました。

バホング村概要

バホングは、ベンゲゲット州都ラ・トリニダードにある 16 の村（バランガイ）の 1 つであり、バラ栽培の町としても知られています。

バホングの土地面積は 16 のバランガイの内 7 番目の広さで、約 650ha です。人口は約 4,800 人、そのうち 80%がカトリック教徒です。また、現在は主に以下の 5 つの異なる少数民族で構成されています。

Ibaloi 70%
Ilocano 10%
Bontoc 10%
Kankanaey 5%
Ifugao 3%

かつては稲作と野菜栽培が主流でしたが、現在ではより商品価値の高い花栽培や高原野菜の栽培に移行し、土地の 60%はバラ園になっています。ビニールハウスを用いたキクやアンスリウム等の商品価値の高い施設農業も拡大してきており、マニラの市場に運ばれています。

この地域では、1990 年代に JICA が灌漑設備を整備し、農村から市場へのアクセス道路を新設・改修し、バラやキクの花栽培を導入することで、住民の収入の向上と雇用の創出を図り、地域開発を進めました。

こうした灌漑施設や道路整備をはじめとする

農村総合整備事業および、農民の能力構築を通した生産基盤の整備が行われた結果、トリニダード市全体における野菜や切花の生産量が飛躍的に増加するとともに、保健・教育分野も改善されました。2000 年時で、75%の農家が花栽培によって収入を得ています。

- ▶ 1989 - Sr. Theresa Uno, endorsed to JICA the cementing of roads, construction of irrigation facilities, domestic water and warehouses.



＜1990 年、日本のラ・トリニダード高地農村総合開発事業支援（HIRDP: Highland Integrated Rural Development Project）により建設されたことが記されているポンプ施設＞



＜1990 年、日本のラ・トリニダード高地農村総合開発事業支援（HIRDP: Highland Integrated Rural Development Project）によって建設されたことが記されている保管倉庫＞

=====

参加者たちは、バホングのコミュニティセンターに集まった人々による伝統的な歌で温かく迎えられ、地元政府職員によるプレゼンテーションおよび質疑応答では活発な意見交換が行われました。

続いて、地元住民により伝統的な踊りが披露され、議員団メンバーも手ほどきを受けながら踊りの輪に加わりました。

その後、実際に JICA の支援のもとに作られたバラ園やビニールハウス、舗装道路、保管倉庫などを視察し、メンテナンスの方法や持続的な戦略について、実施における具体的な話を聞きました。また、地元住民から熊谷大参議院議員に対し、日本の支援に対する感謝の意が示されました。

現地メディアを交えた昼食会の後、最後のセッションとなる総括協議を行い、参加者からのフィードバックと協議の後、「行動の呼びかけ」を全員一致で採択しました。

＜総括協議＞

参加者からのフィードバック

ティサ・カラリヤデ 児童開発・女性担当大臣（スリランカ）

初日の会議では、宗教の観点から見た人口・開発問題について、議論を重ねることができ、非常に有益でした。続いてこの地域を視察に訪れ、少数民族の方々と交流し、自国スリランカの少数民族のコミュニティを思い出しました。どの少数民族も、外界との交流を通じて社会が変化しており、文化的遺産や伝統の継承の面で課題に直面しています。このプログラムを通して学んだことは、確実に各国における政策形成に貢献するでしょう。



マリアニー・モハマド・イット 議員（マレーシア）

初日の会議では、特に若者の HIV 対策、SRH に関するセッションに感銘を受けました。マレーシアでは、1960年代、家族計画が非常に功を奏し



ていました。しかし現在、そうした過去の成果が失われつつあります。新しく国家戦略を考える上で、会議から多くのことを学ぶことができました。

また、視察も素晴らしい経験でした。特にバホング村は大きな成果を上げていました。ぜひ APDA には、こうした国会議員の能力構築のための事業を引き続き実施して頂きたいと思います。インドのマンモハン・シャルマさんが「友情を育むことは、学ぶ過程の一部だ」とおっしゃっていましたが、私もその通りだと感じています。

閉会挨拶

熊谷大 参議院議員（日本）

2 年前の東日本大震災・津波被災地出身の国会議員として、皆様の国からの多大なご支援に心よりお礼申し上げます。また JPFP を代表して、本プログラムにご協力くださった PLCPD、ラ・トリニダード市、バギオ市、少数民族に関する国家委員会、その他関係者の方々のご尽力に深く感謝申し上げます。

今年 29 回目を迎えた APDA 会議は、1982 年に APDA が AFPPD の母体として設立されて以降、アジアの国会議員活動の重要な柱として継続して実施されてきました。JPFP は今後も APDA とともに、こうした事業を通して国会議員活動と議員の連携を強化し、人口問題の解決に向け、最大の努力を致したいと思います。



第 29 回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議および人口と開発視察

行動への呼びかけ

2013年8月30日
フィリピン国

フィリピンに参集した私たちアジア・太平洋諸国 14 カ国の代表議員は、人口問題解決のためにミレニアム開発目標（MDGs）達成を加速し、2015 年に向けたそして 2015 年以降の持続可能で平等な開発を促進するための取り組みを強化・継続していくことに自らの問題として係わる。

私たちは、以下の事実を再確認する

1. 人口問題の解決は、一人ひとりの福利と持続可能な開発を実現するために不可欠な前提条件である。
2. 人口・開発分野における国会議員活動を促進することは、人々の幸福と尊厳を守り、改善するために、一人ひとりのそして国会議員全体の役割を強化する上で、極めて重要である。
3. 人口問題解決へ向けた手法やプログラムは、異なる文化と価値観を尊重し、ICPD 行動計画および関連する人口分野の国際的な合意と整合性のあるものとする。

私たち国会議員は以下の行動にコミットする。

1. 人々の生活や価値観の基盤である異なる信仰・文化を尊重する人口プログラムと施策を導入する。
2. 国会議員は政府と国民の架け橋として、文化的に異なるグループと緊密に連携をとり、人々の福利を向上し、それぞれの宗教、文化的背景に配慮した（家族計画の近代的手法を含む）現実的な人口問題への対処を採用することで、彼らがおかれた状況を改善する。
3. 政府に対し、特に文化的に異なるグループが直面する社会、保健、経済分野の課題に留意し、生活・生存に必要な手段を確保するよう求める。

私たち国会議員は、この共通了解を私たちの具体的な行動およびより一層の交流の基盤として、これらの行動の呼びかけを実行に移し、さらにそこで成し遂げられた進捗を私たち議員グループならびにネットワークを通じて積極的に共有することを誓う。私たちはまた、2015 以降の開発アジェンダの不可分の課題である人口問題を啓発し、問題解決に向けるために、国会議員間のパートナーシップと協力をより一層強化していくことを誓約する。

参加者リスト

国会議員・人口と開発に関する国内委員会			
1	ウゲン・ワンディ	ブータン	国会議員
2	ワン・ロンドゥー	中国	国会議員；全国人民代表大会常務委員；ESCPH 副議長
3	シェン・ヤン	中国	国会議員；ESCPH メンバー
4	シエ・シャオピン	中国	ESCPH 人口・公衆衛生・スポーツ局 副局長
5	ホー・トゥオ	中国	ESCPH 総務課 上級職員
6	チャン・チュワンシェン	中国	総務課長
7	マンモハン・シャルマ	インド	IAPPD 事務局長
8	ハイルン・ニサ	インドネシア	国会議員
9	モハマッド・オハオ・シナボイ	インドネシア	国会議員
10	ハジ・ハイリア・SH	インドネシア	国会議員
11	グスティ・カンジェン・ラトゥ・ヘイマス	インドネシア	地方代表議会 副議長
12	リナ・ハルタミ・ウィディアストゥティ	インドネシア	国会議員アシスタント
13	ロリー・スヘンティ	インドネシア	国会議員アシスタント
14	福田康夫	日本	元日本国首相；APDA 理事長；JPFP 名誉会長；AFPPD 元議長
15	生方幸夫	日本	国会議員；JPFP 副会長
16	阿部俊子	日本	外務大臣政務官；JPFP 女性問題部会長；国会議員
17	熊谷大	日本	国会議員；JPFP メンバー
18	ソンプー・ドウアンサヴァン	ラオス	国会議員；LAPPD 副議長；社会・文化委員会 副委員長
19	ヴィエンマニー・チャンサナシン	ラオス	国会議員
20	ブンラート・ロンドゥアンチャン	ラオス	LAPPD 事務局長
21	マリアニー・モハマド・イット	マレーシア	国会議員
22	アーメッド・アブドラ	モルディブ	国会議員
23	フランシス・マルース	パプアニューギニア	国会議員
24	ピア・カエタノ	フィリピン	PLCPD 上院側議長
25	ベラフォール・アンガラ・カスティロ	フィリピン	PLCPD 下院側議長
26	ホアン・エドガルド・ソニー・アンガラ	フィリピン	PLCPD 上院側副議長

27	ウォルデン・ベロ	フィリピン	PLCPD 国際協力委員長
28	テディ・ブラウナー・バギラット	フィリピン	国家文化委員会副委員長；PLCPD ルソン地区副議長
29	テリー・リドン	フィリピン	国会議員
30	ジャネット・ガリン	フィリピン	保健省次官
31	シッティ・ジャリア・トゥラビン・ハットマン	フィリピン	Amin（Anak Mindanao：ミンダナオ出身者連合）Party-List 組織代表；PLCPD メンバー
32	ナンシー・カタムコ	フィリピン	国会議員；国家文化委員会委員長
33	リナベラ・ルース・R・ピラリカ	フィリピン	国会議員
34	ティサ・カラリヤデ	スリランカ	児童開発女性担当大臣
35	ヴィタヤ・イナラ	タイ	国会議員
36	アヌサート・スワンナモンコル	タイ	国会議員
37	ノンタワット・コングモー	タイ	国会議員アシスタント
38	ラモン・サン・パスカル	タイ	AFPPD 事務局長
39	アントニオ・シメネス・セルパ	東ティモール	国会議員
40	エラディオ・アントニオ・ファカルト・デ・ジーザス	東ティモール	国会議員
41	シャルルマーニュ・ゴメス	東ティモール	UNDP 国会プロジェクトジェンダー・法律顧問
42	グエン・ティ・カ	ベトナム	国会議員；VAPPD 執行委員
43	グエン・ドゥック・サス	ベトナム	VAPPD 事務局長
国連人口基金（UNFPA）			
44	アン・ハーマー	タイ	アジア・太平洋地域（APRO）地域コーディネーター
国際家族計画連盟（IPPF）			
45	ノラ・ムラット	マレーシア	国際家族計画連盟（IPPF）東・東南アジア／オセアニア地域（ESEAOR）地域事務局長
46	ゲッセン・ロカス	フィリピン	フィリピン家族計画協会（FPOP）事務局長
リソースパーソン（会議・視察）			
47	ジュン・オマール・エブダネ	フィリピン	前国会議員
48	アーネスト・ペルニア	フィリピン	フィリピン大学経済学部教授
49	ロドリゴ・タノ	フィリピン	司教；親としての責任を推進する信仰間パートナーシップ理事長
50	エリザベス・アングシオコ	フィリピン	フィリピン民主社会主義者女性団体代表

51	パーシバル・セnderニャ	フィリピン	Large P&D 国家ユース・プログラム委員長
52	ハート・ディーニョ	フィリピン	フィリピン学生連盟
53	レディ・リソンドラ	フィリピン	フィリピン家族計画協会元ユースコーディネーター
54	Fr. ロドルフォ・ヴァンサン・カンチーノ Jr., MI	フィリピン	神父；The Camillian Fathers, Inc. プログラム計画長
55	エドナ・タバンダ	フィリピン	ラ・トリニダード市長
56	マウリシオ・ドモガン	フィリピン	バギオ市長
57	ラファエル・サロコイ	フィリピン	バギオ市長秘書官
58	キャスター・パラガナス	フィリピン	フィリピン大学バギオ校社会学部長
59	ポリーナ・サワダン	フィリピン	アブラ族
60	ポール・バグイタイ	フィリピン	アブラ族
61	ノルベルト・デュラン	フィリピン	アパヤオ族
62	ピーター・コザラン	フィリピン	ベンゲット族
63	イメルダ・パルカソロ	フィリピン	ベンゲット族
64	ジュリー・C・カバト	フィリピン	ベンゲット族
65	ヘンリー・ハコルナ	フィリピン	神父；イフガオ族
66	シーナ・G・ブマンジル	フィリピン	カリంగా族
67	リン・マダラン	フィリピン	MT.州
68	ジョナサン・オバー	フィリピン	FBO（信仰に基づく社会奉仕団体）
69	ヘレン・R・ティバルド	フィリピン	フィリピン情報局（PIA）局長
70	ジョアン・バコリング	フィリピン	ラ・トリニダード市企画専門官
オブザーバー			
71	イメルダ・E・グルッポ	フィリピン	ラ・トリニダード市予算官
72	ゼナイダ・ブリギダ・パウイド	フィリピン	少数民族に関する国内委員会委員長
73	テディ・M・クイントス	フィリピン	バランガイ長連盟代表
フィリピン人口・開発議員委員会（PLCPD）			
74	ロメオ・C・ドンゲト	フィリピン	事務局長
75	キスタジャイ・レバー	フィリピン	総務サービス
76	ネニタ・ダルデ	フィリピン	全国アドボカシー担当官
77	マイダ・オジェダ	フィリピン	広報担当官
78	ドディ・ルーカス	フィリピン	
公益財団法人アジア人口・開発協会（APDA）			
79	楠本修	日本	事務局長；常務理事
80	恒川ひとみ	日本	APDA

81	ファルフ・ウスモノフ	日本	APDA
通訳			
82	町田公代	日本	通訳
83	太田晴子	日本	通訳
84	美馬久美子	日本	通訳

主催：

アジア人口・開発協会（APDA）
フィリピン人口・開発議員委員会（PLCPD）

後援：

国連人口基金（UNFPA）
国際家族計画連盟（IPPF）
人口と開発に関するアジア議員フォーラム（AFPPD）